

森村大朴 だいぼく 儒者。文政五年尾張國生れ、明治二十九年九月二十七日歿（八三一九六）。諱宜民（宜氏）、字士深、通稱中根善次郎、森村作左衛門、作七。尾張藩士中根善左衛門次男、嘉永五年二十一歳の折森村氏を襲ぐ。藩費明倫堂に學び、武蔵神影流山高澤左衛門に就き研修。また河原南山の私塾養源舎に入り塾頭となる。元治元年明倫堂監生、その後助教、漢學一等助教に進む。廢藩後一時海東郡今村に移居、のち名古屋の遷りて門生に漢籍を教授。更に尚絅學舎、愛教學校等（いんこうがく）を教へ。明治十六年愛知縣中學校教官、二十年辭して私塾を開いた。

『大朴遺稿』全二冊（大正二年十一月十五日愛知・森村宜裕刊）の他、馬場守次著『森村大朴先生』（昭和十一年九月五日愛知・珊瑚社）がある。

